

研究学園地区の発展と課題

動機

私がつばに引越してきてから6年が経ちました。私が住んでいる研究学園地区では近年、公共施設がつば中心部から移転し、住宅街や商業施設も増え、街が発展してきました。私が引越してきた当初より、街の雰囲気が変わったと感じました。そこで、ここ数年の変化に興味を持ち、このテーマに臨むことにしました。

茗溪学園2年池田歩雅

目的

研究学園地区の5年前と現在の地図を比べて、現在までの便利になった点や今後の課題を見つける。

調査方法

- ①研究学園地区の5年前と現在の違いについて、インターネットで市役所のHPなどから情報を集める。
 - ②調べた場所を実際に訪れ、事実を知るために詳しく調査する。
- ※今回の調査における研究学園地区とは、研究学園学園の森、学園南を指す。

学園の森義務教育学校 1



平成30年度開校。新設にも関わらず大幅な生徒数の増加により、教室が不足。2022年までに27教室を増築予定。

葛城西線 2



道路沿線には多数の住宅街や店舗が建ち並び、片側一車線のため、週末になると渋滞がひどい。

つば市中央消防署 3



2015年3月に研究学園一丁目に移転。東日本大震災の被災経験から庁舎を免震構造にし、最新システムを導入。市役所の隣なので災害時に迅速な初動体制が期待される。

つば警察署(仮称) 4



学園の森3丁目に建設中。(2019年8月現在) 2020年開署予定。つばは中央警察署とつば北警察署を統合した。

つば市役所 5

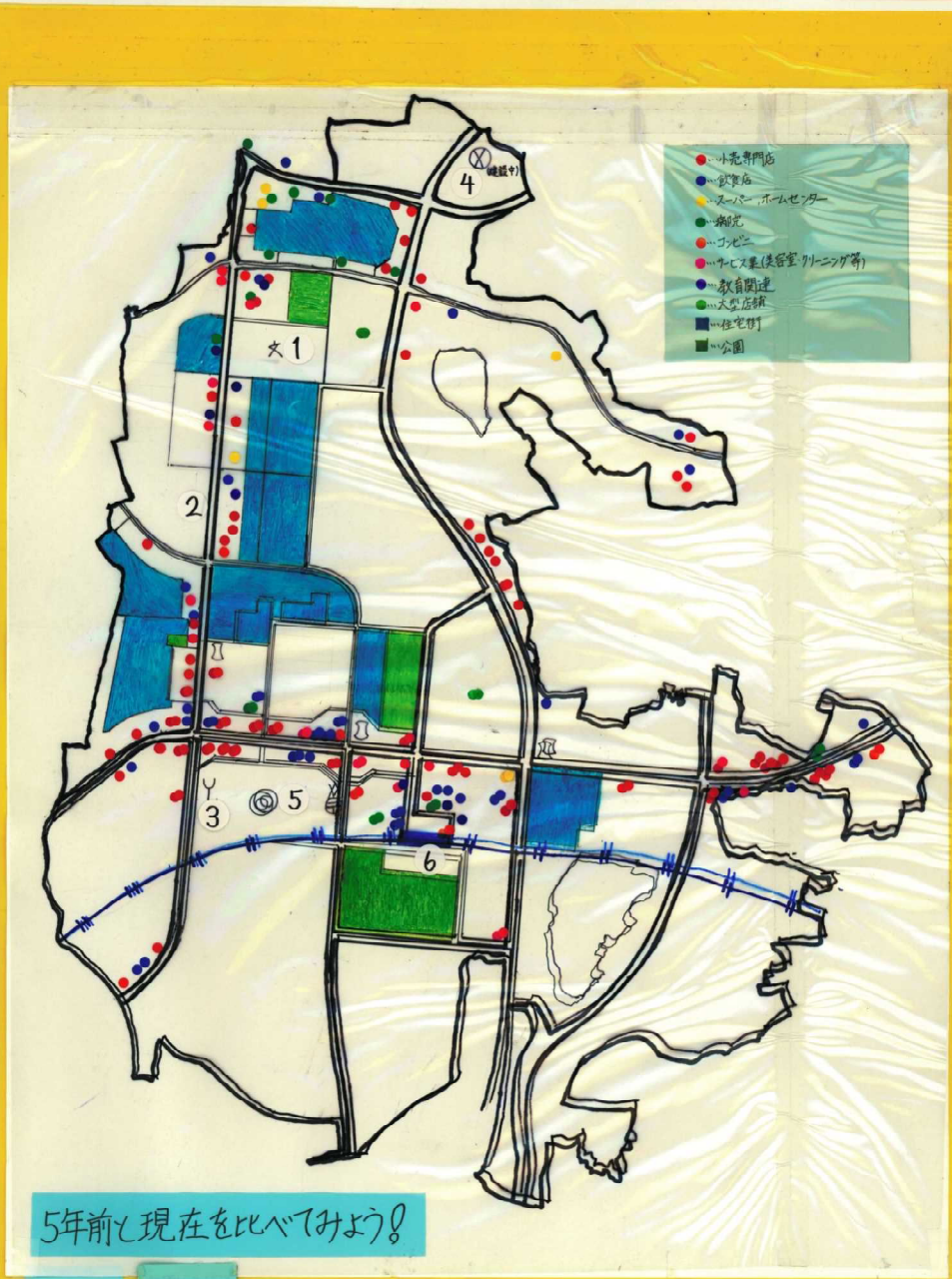


7つの旧庁舎を統合して2010年に現在の庁舎に移転した。研究学園地区の面積 約84.7ha
 人口 2014年7月 3698世帯 9352人
 2019年7月 7050世帯 18454人
 2019年に完成したコミュニティ棟内に市民も使えるコミュニティスペースができた。

研究学園駅



2005年開業。
 1日平均乗車数
 2005年...1035人
 2014年...6097人
 2018年...7405人
 混雑緩和のために2030年代前半までに8両編成化を予定。



5年前と現在を比べてみよう!

2014年 2019年

考察

研究学園地区が急速に発展している理由
 ①TXの開業により、首都圏へのアクセスが容易になったこともあり、人口が増加した。
 ②市役所や消防署、警察署などの公共機関が研究学園地区に移転した。
 ③住宅地、商業施設が爆発的に増えた。

現在抱えている問題

- ①近所にスーパーマーケットや生活必需品が購入できる店が増え、便利になった反面、一部の道路が混雑してしまうなどの支障をきたしている。
- ②自動車販売店や美容室など、特定のジャンルの店が乱立しているように見える。その中には、開業して間もなく閉店してしまう店もある。
- ③想定を超える人口増加により、新設した小中一貫校も開校3年目となる令和2年度で教室の不足が見込まれている。
- ④9年生1クラス、8年生2クラスに引き換え、1年生9クラス、2年生8クラスと学年による人数の偏りがあるため、小中一貫校の特長が活かされにくい。
- ⑤図書館の建設の聲援が出ていするなど、まだまだ足りないものか研究学園地区には残されている。

まとめ

都市計画に基づいて街はつづられていきまわ、必ずしも計画通りに行くとはいりません。街にのりて、良いものもわたりません。まして、研究学園地区は急速に発展して、計画と現状のズレに対応が間に合っていない気がします。そこに都市計画の難しさを感じました。住みよい街にするためには、街が抱えている問題に対していかに柔軟に対応できるかが大切だと思います。

参考

- 茨城県警察HP
- 茨城新聞知事HP
- つばはエクスプレス沿線のまちづくりHP
- つばはエクスプレスHP
- 各年行政区別人口表(つば市役所HP)